



2021年12月期 決算説明会資料

株式会社オプトラン

2022年2月15日



01

2021年度 実績

02

2022年度 通期見通し

1. 2021年度 実績



1.発表のポイント

2021年実績

- 売上・利益とも業績予想を上回り着地
- 売上総利益率は前年比向上（新型装置比率33%）
- 当期純利益は63億円（前年度比6%減益）
- 受注高は、スマートフォン、IoT、LED向け受注が貢献し、前年度比23%増加。
- ALD装置受注も確実に積み上がる。

2.業績ハイライト（2021年）



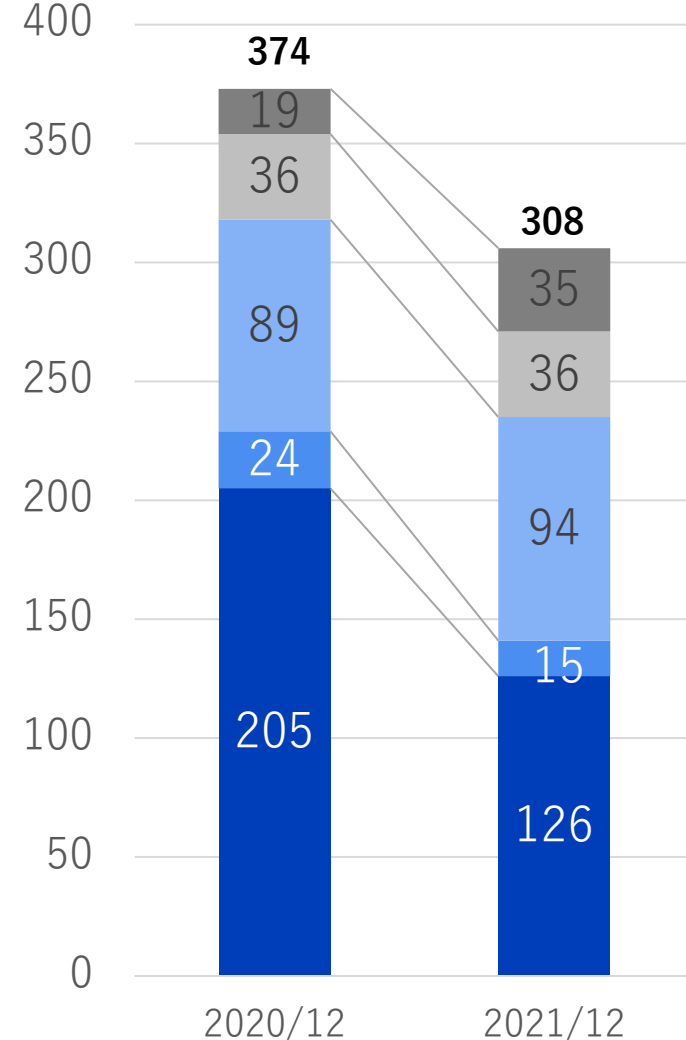
【単位：億円】	2020年12月期 実績	2021年12月期 予想（8月24日）	2021年12月期 実績	前年同期比	予想比
売上高	374	303	308	△17.6%	2.0%
売上総利益	146	129	133	△8.8%	2.8%
	(39.2%)	(42.6%)	(43.3%)	—	—
営業利益	86	68	70	△18.6%	3.3%
	(23.0%)	(22.4%)	(22.7%)	—	—
経常利益	86	71	79	△8.2%	11.3%
	(23.0%)	(23.4%)	(25.6%)	—	—
当期純利益	67	56	63	△6.9%	13.0%
	(18.1%)	(18.5%)	(20.5%)	—	—
研究開発費	31	31	30	△2.7%	△1.3%
	(8.4%)	(10.3%)	(9.9%)	—	—
設備投資額	7	—	9	26.9%	—
受注高	286	—	354	23.9%	—
受注残高	235	—	281	19.3%	—

3.分野別売上高・分野別受注高

分野別売上高

■ スマートフォン ■ カメラレンズ ■ IoT ■ LED ■ その他

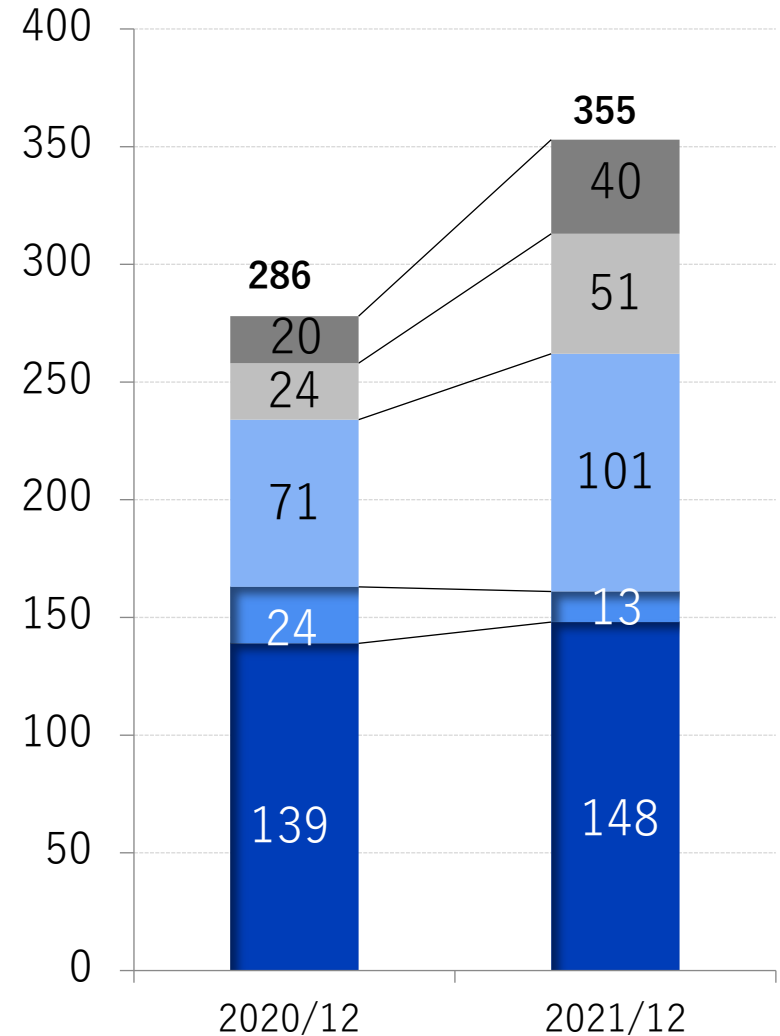
(億円)



分野別受注高

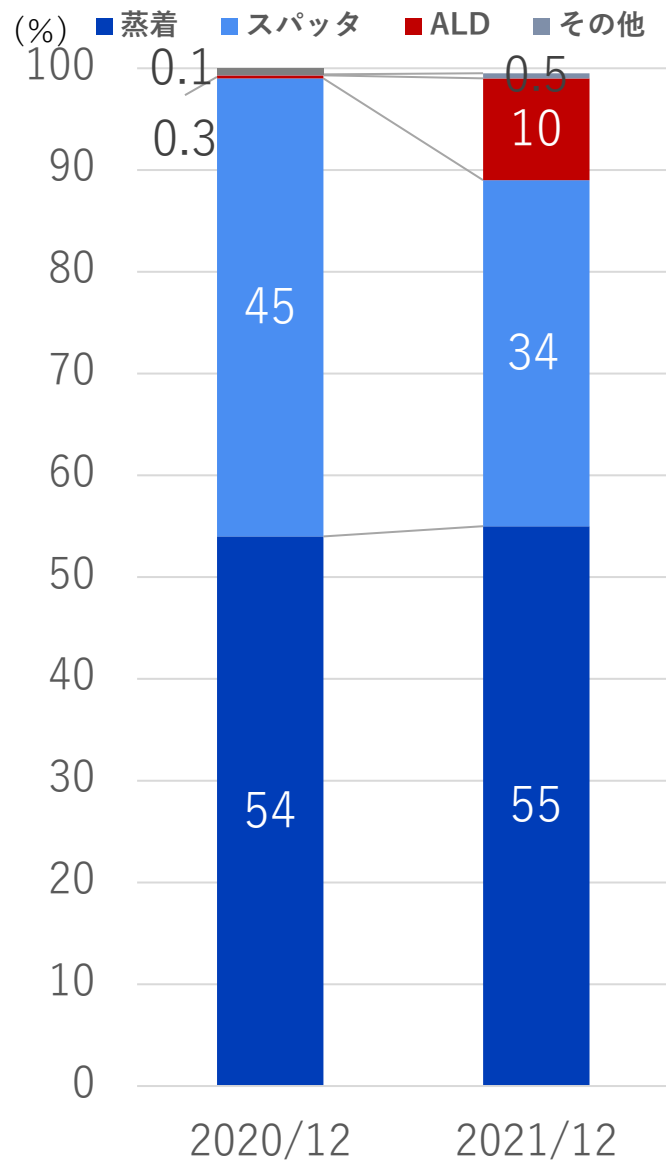
■ スマートフォン ■ カメラレンズ ■ IoT ■ LED ■ その他

(億円)

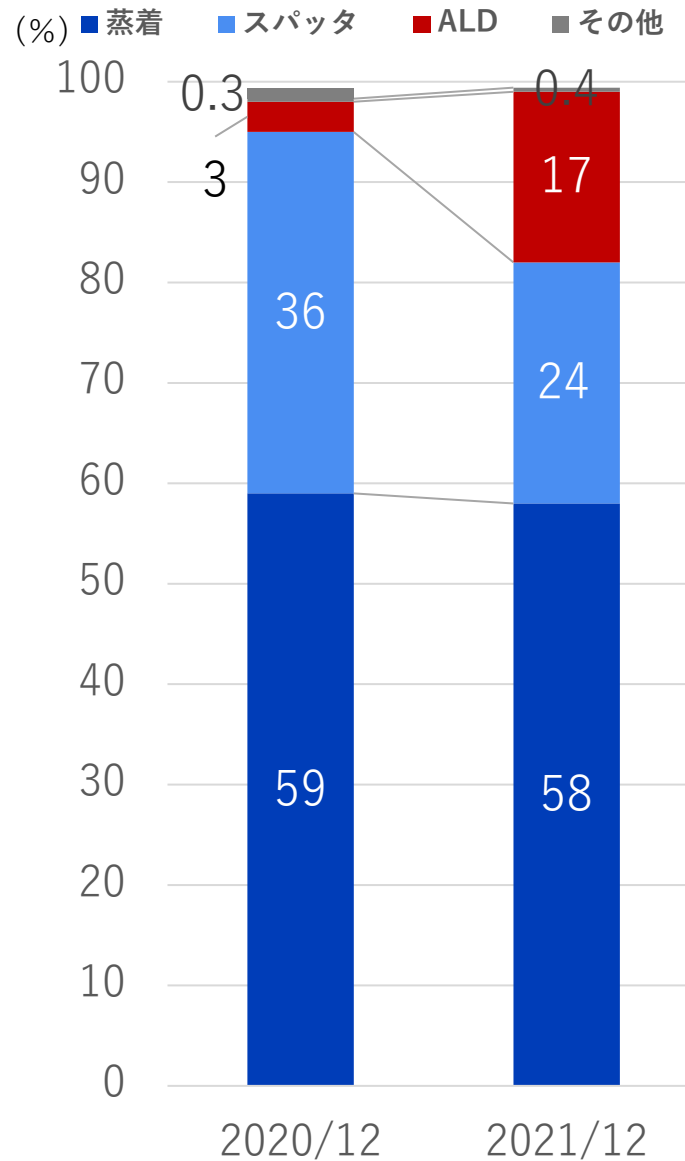


4.装置別売上高・装置別受注高

装置別売上高

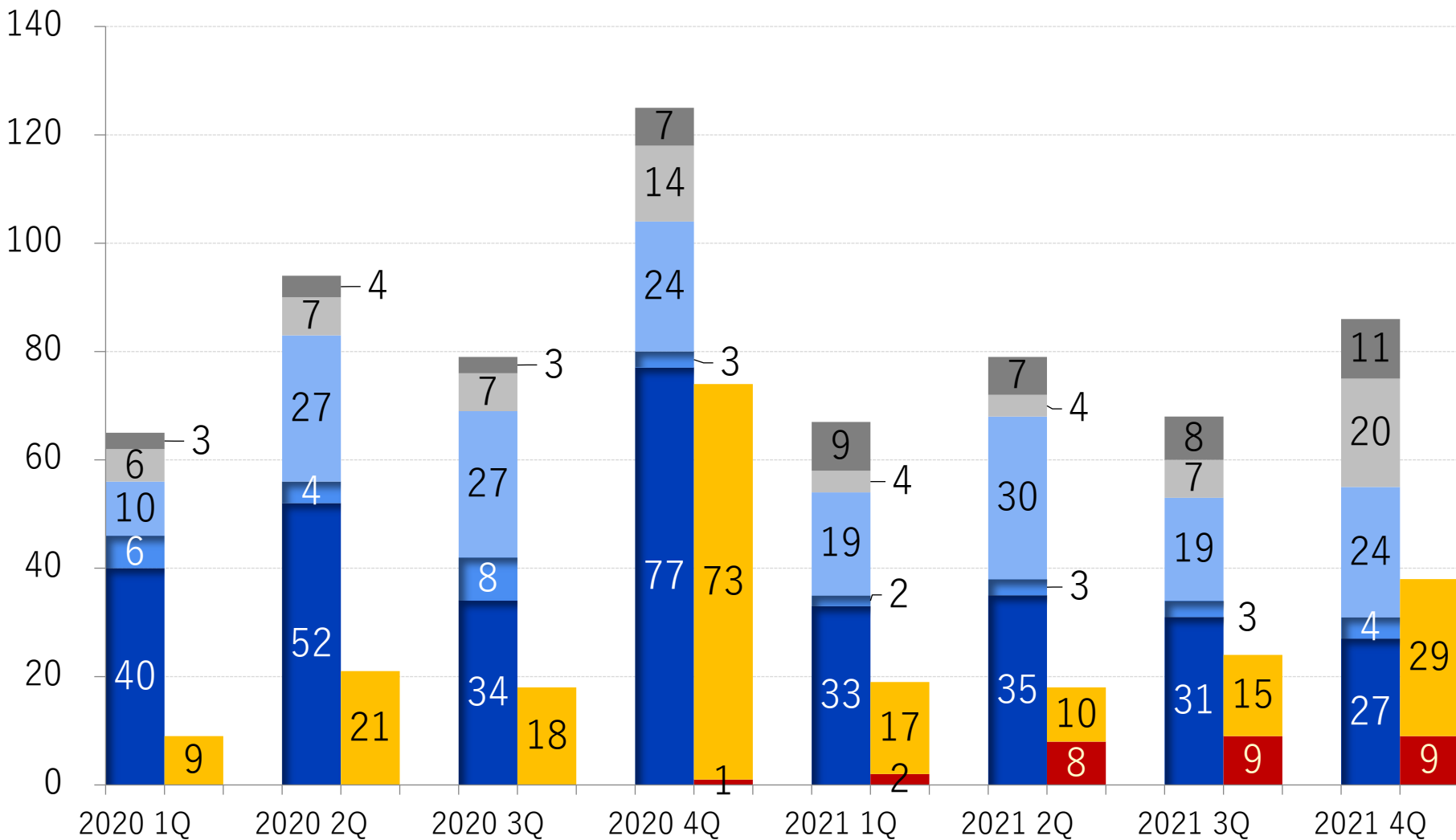


装置別受注高

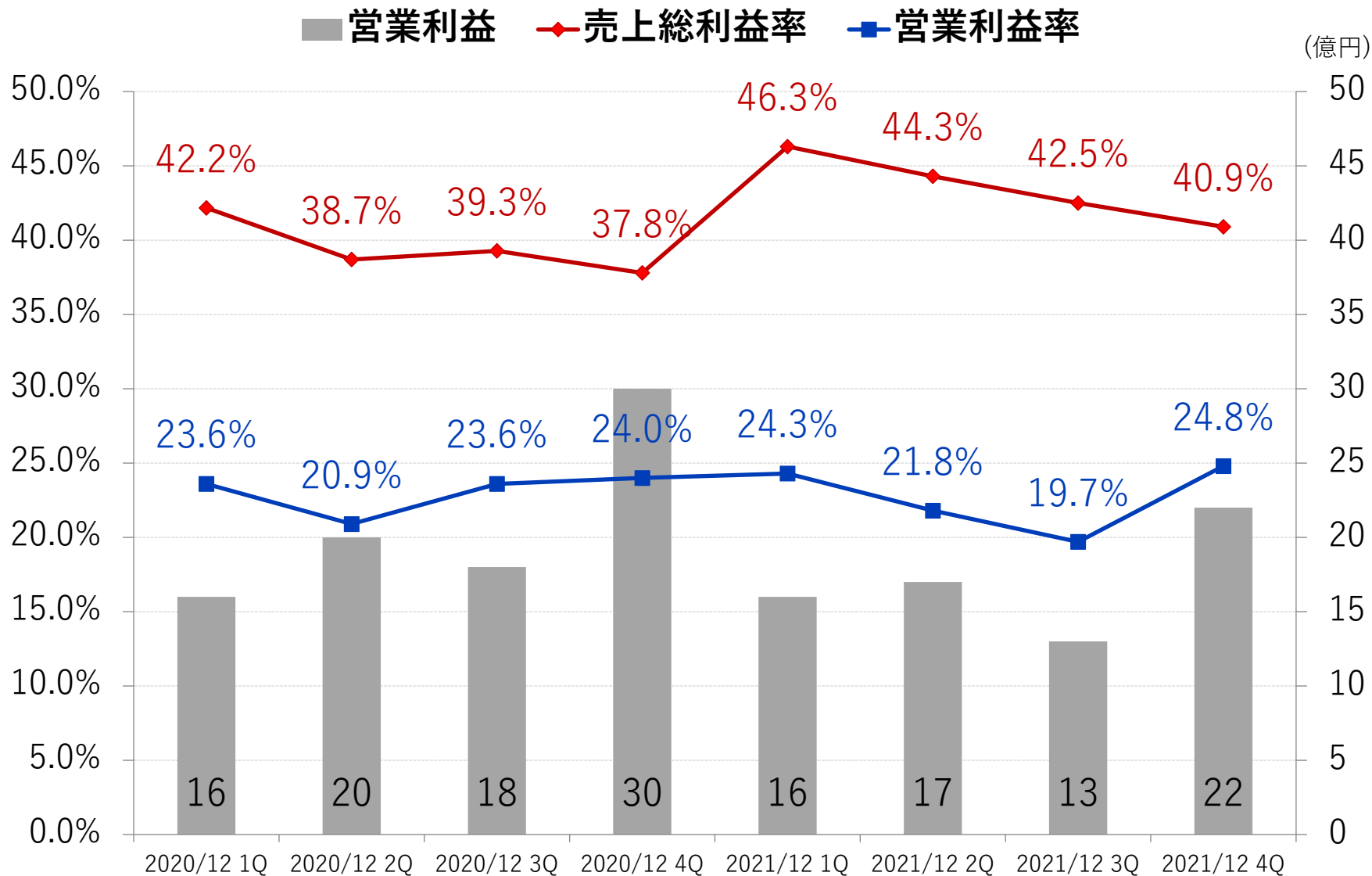


5.売上高内訳推移 (四半期毎)

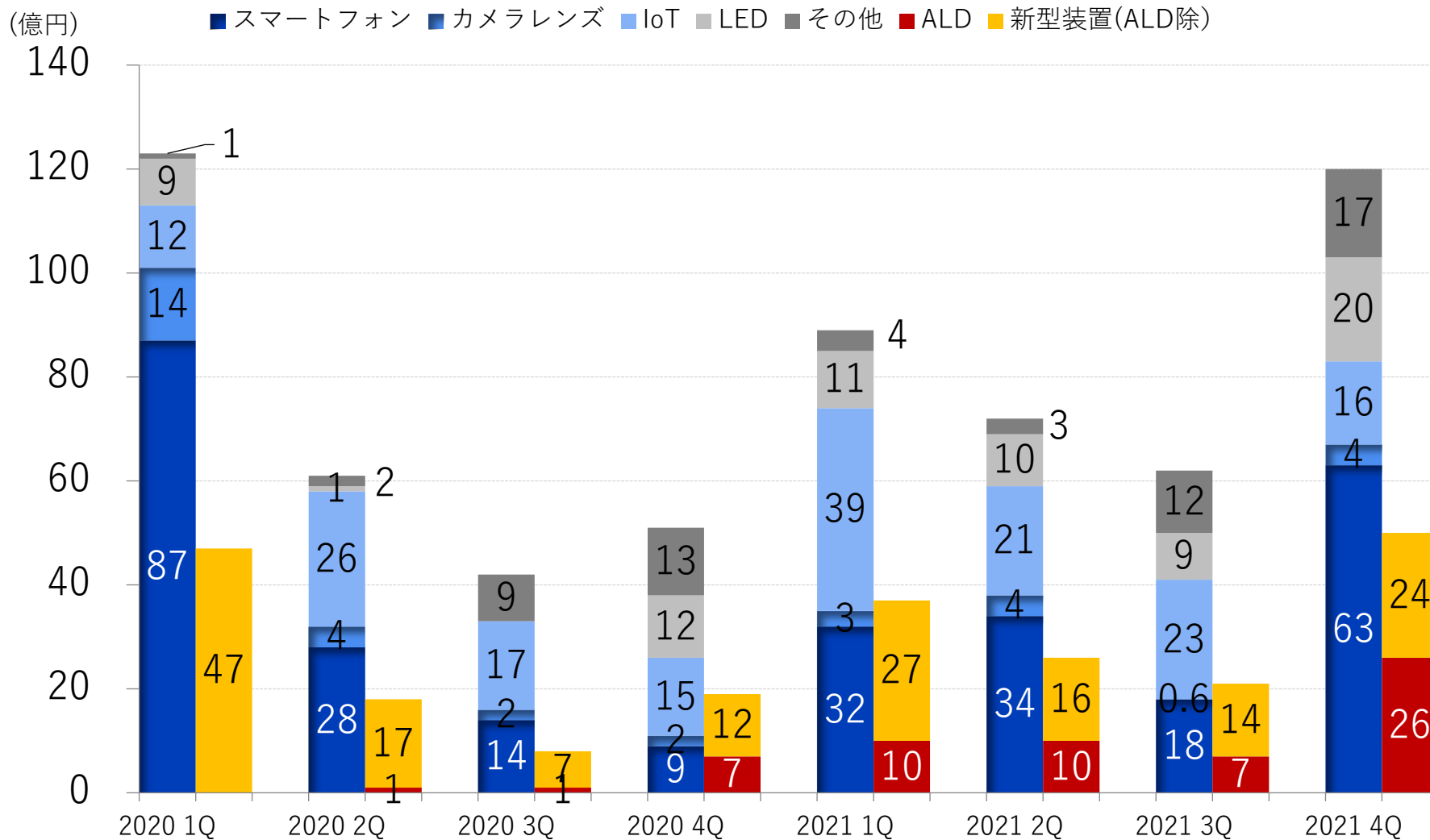
(億円) ■スマートフォン ■カメラレンズ ■IoT ■LED ■その他 ■ALD ■新型装置(ALD除)



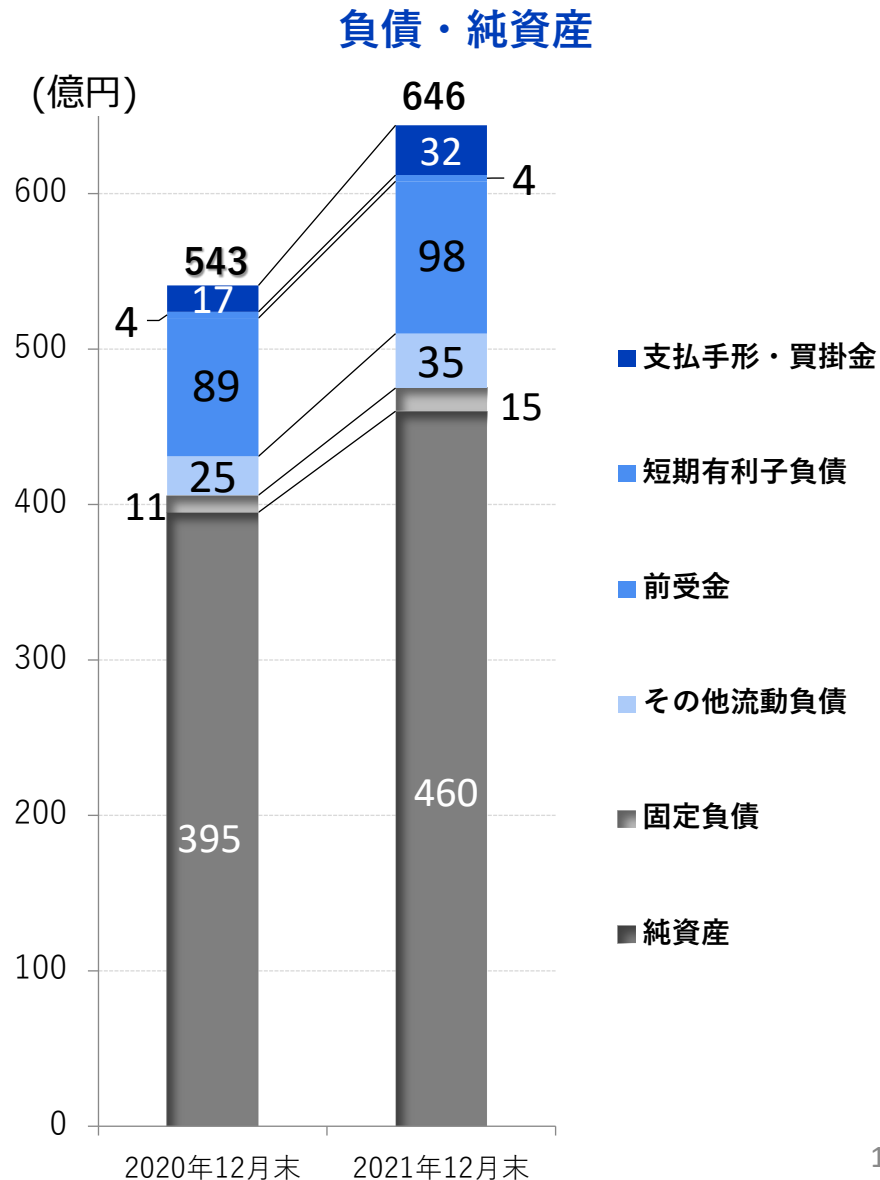
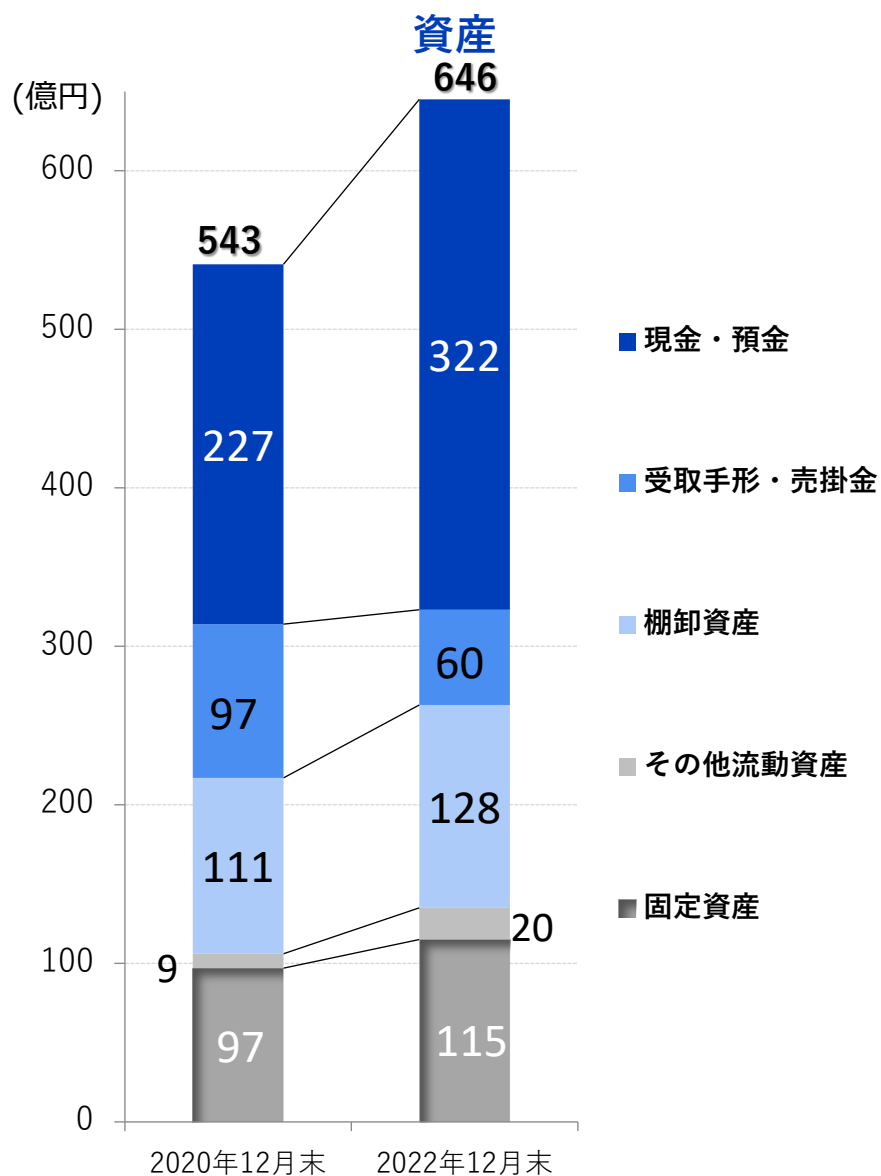
6.売上総利益・営業利益（四半期毎）



7.受注高 (四半期毎)



8.連結貸借対照表 (2021年12月末)



9. キャッシュフローの状況

(億円)

	2020年12月期	2021年12月期		主な要因
	金額	金額	増減額	
営業活動によるCF	△5	106	112	売上債権回収による
投資活動によるCF	△10	3	14	出資金の売却による
財務活動によるCF	△24	△27	△2	配当金支払いによる
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△1	12	14	
現金及び現金同等物の増減額	△42	95	137	
現金及び現金同等物の期首残高	269	227	△42	
現金及び現金同等物の期末残高	227	322	95	

2. 2022年度 通期見通し



1.連結業績予想（2022年12月期）

（億円）

	2021年12月期 実績	2022年12月期 予想	前期比
売上高	309	319	3.3%
営業利益	70	65	△7.5%
（営業利益率）	（21.1%）	（20.3%）	—
経常利益	78	63	△20.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	62	46	△27.3%
配当予想	50	42	—

	米ドル	人民元
計画レートの	110.0	18.2

* 2022年 予想：1円円安ドル高による売上へのインパクト＝約1億円

2.連結業績予想前提

1. 事業環境

- スマートフォンに加え、AR/VR、車載、通信、バイオセンサー、ディスプレイが中長期的成長ドライバー。特に半導体と光学が融合する市場トレンドが大きな成長機会。
- 売上予想は、足元の新型コロナウイルス感染拡大・半導体不足の影響等勘案。

2. 粗利率

- 新型装置売上比率目標を35%とし、製造費用削減と併せ、前年度水準を計画。

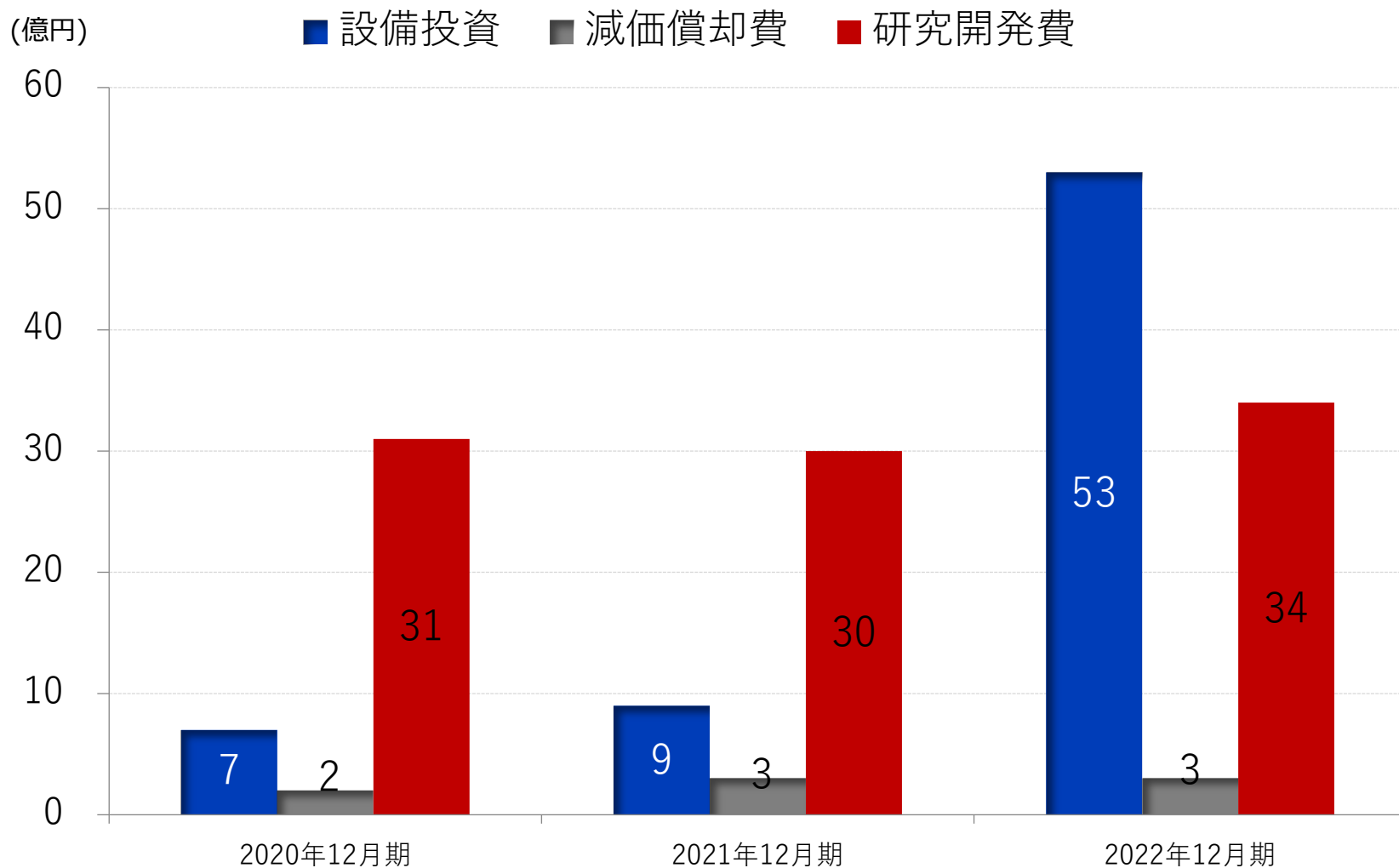
3. 営業利益

- 中期的成長を重視した支出により、65億円見込む。
- 研究開発費：34億円（前期比3億円増）
→対売上比率を10%強（前期比+0.9%）に引き上げ、研究開発活動に注力。
- その他販管費：39億円（前年度比+7億円）
→国内研究開発施設取得に伴う費用、ALD新会社本格稼働による人件費増等。





4. 経常利益・当期純利益

- 前年計上した為替益及び特別利益を、今期予想は含まず。

3.設備投資・減価償却費・研究開発費



4.成長マーケット動向

 <p>スマートフォン</p>	<ul style="list-style-type: none">● 2022年の受注はカメラモジュールの貢献を期待。● 高解像度及び広角レンズ向けにALD受注継続。
 <p>AR/VR</p>	<ul style="list-style-type: none">● 受注増加の流れが継続。● 本格普及に向けて、北米・アジアで投資意欲が強い。
 <p>車載</p>	<ul style="list-style-type: none">● 車載カメラ、ヘッドアップディスプレイ、インストゥルメントパネル、センサー等受注の多様化継続。
 <p>5G</p>	<ul style="list-style-type: none">● 光通信向け装置は、若干落ち着く見通し。● RFフィルター関連は、実用化に向けて開発中。

5.中長期戦略

1. 「半導体光学融合」/3Dをキーワードに拡大する市場での成長

- 市場での更なる高度な機能追求と、光学薄膜・蝕刻ニーズの広がりが、大きな成長機会。Mini/Micro LED、ディスプレイ、自動車・AR/VR・認証・光通信・ヘルスケア等での新型製品開発を一層進め成長を実現する。

2. グローバルリーダーとしての競争優位性確立

- 市場シェア拡大に向け、競争優位性（コスト・品質）を確立する。

3. 成長を支えるインフラ基盤構築

- インフラ整備（国内研究開発施設取得など）・人材育成・リスク耐性強化を進め、持続可能な成長態勢を強化する

4. SDGs/ESGへの取組み

- 事業の実態に沿って、顧客の生産効率アップや省エネ化等に取り組む。
- TCFD開示に向けた取組み実施。

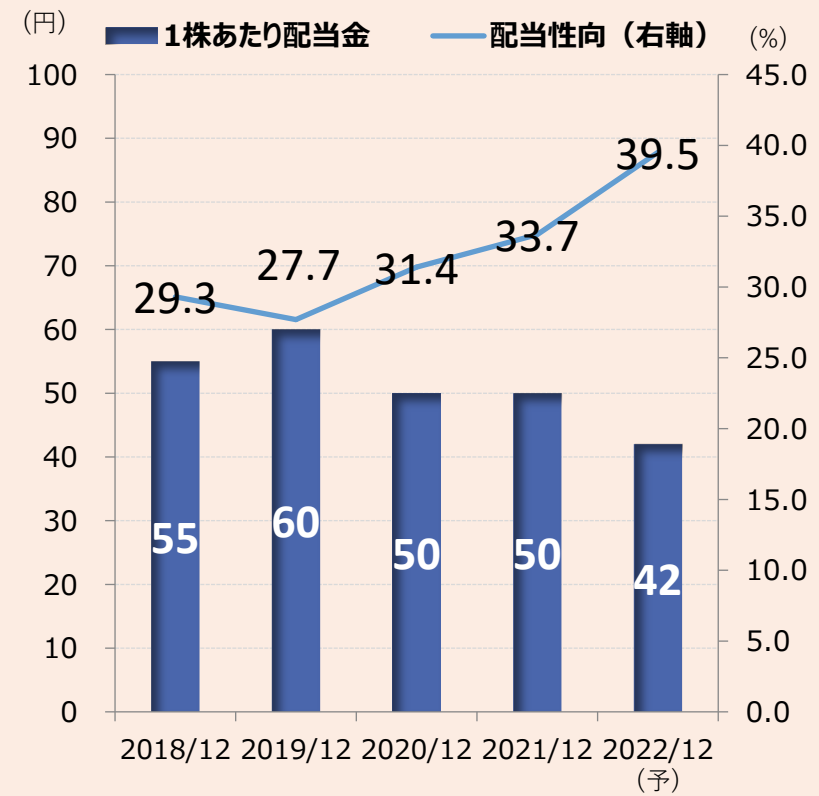
6.株主還元

- 今期は1株配当金42円を予定。
- 株主還元を重視し、極力配当額を維持する。

配当方針

研究開発投資、生産体制強化、新事業開拓等の必要な内部留保資金を確保しつつ、余力は株主還元を最大限実施します。

連結配当性向30%程度を目安に、安定的な配当を目指します。



7.トピックス

- 光馳科技（上海）有限公司の第3棟稼働開始。
- 研究開発機能を第3棟に集約し、研究開発能力アップ。



免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2022年2月14日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp TEL : 03-6635-9487